

承認 	議長 	副議長 	事務局長 	次長 	合議  	担当 
---	---	--	---	--	---	---

様式第1号

令和7年9月25日

真庭市議会
議長 長尾修様

真庭市議会議員 緒形尚 

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行うことについて届けますので、承認願います。

記

1 区分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪問先

法政大学

東京都千代田区富士見 2-17-1

東京都中野区清掃事務所

東京都中野区松が丘 1-6-3

3 内容

全国地方議会サミット2025

ゴミや資源を訪問収集（自宅まで収集に来てくれる）

4 行程 別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要

（注）複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



視察日程表 2025年11月7日～11月9日

	日付	出発	到着	イベント	内容
1日目	11/7	5:30	6:40	真庭市役所→岡山空港	車移動（中国道・岡山道経由）
		7:10	8:25	岡山空港→羽田空港	JAL232便
		9:03	9:32	羽田空港→泉岳寺駅	空港線（11駅・29分）
		9:35	9:38	泉岳寺駅→アパホテル泉岳寺駅前	徒歩（3分）荷物預け
		9:50	9:53	アパホテル泉岳寺駅前→泉岳寺駅	徒歩（3分）
		10:35	10:37	泉岳寺駅→品川駅	京急本線（1駅・2分）
		10:41	11:05	品川駅→高田馬場駅	山手線（10駅・24分）
		11:17	11:23	高田馬場駅→新井薬師前駅	新宿線（3駅・6分）
		11:25	11:31	新井薬師前駅→中野区清掃事務所	徒歩（6分）
		13:00	14:30	東京都中野区清掃事務所視察 ゴミや資源を訪問収集（自宅まで収集に来てくれる）	
		14:40	14:46	中野区清掃事務所→新井薬師前駅	徒歩（6分）
		15:06	15:12	新井薬師前駅→高田馬場駅	新宿線（3駅・6分）
		15:18	15:42	高田馬場駅→品川駅	山手線（10駅・24分）
		15:49	15:51	品川駅→泉岳寺駅	京急本線（1駅・2分）
		15:55	15:58	泉岳寺駅→アパホテル泉岳寺駅前	徒歩（3分）
2日目	11/8	10:50	11:01	アパホテル泉岳寺駅前→高輪ゲートウェイ駅	徒歩（11分）
		11:12	11:26	高輪ゲートウェイ駅→秋葉原駅	京浜東北線（5駅・14分）
		11:32	11:39	秋葉原駅→飯田橋駅	中央・総武線（3駅・7分）
		11:42	11:52分	飯田橋駅→法政大学	徒歩（10分）
		14:00	18:00	全国地方議会サミット2025（1日目）	
		18:11	18:20	法政大学→飯田橋駅	徒歩（9分）
		18:26	18:33	飯田橋駅→秋葉原駅	中央・総武線（3駅・7分）
		18:38	18:54	秋葉原駅→高輪ゲートウェイ駅	京浜東北線（7駅・16分）
		18:57	19:08	高輪ゲートウェイ駅→アパホテル泉岳寺駅前	徒歩（11分）
3日目	11/9	8:30	8:41	アパホテル泉岳寺駅前→高輪ゲートウェイ駅	徒歩（11分）
		8:44	9:00	高輪ゲートウェイ駅→秋葉原駅	京浜東北線（5駅・14分）
		9:03	9:10	秋葉原駅→飯田橋駅	中央・総武線（3駅・7分）
		9:13	9:23	飯田橋駅→法政大学	徒歩（10分）
		10:00	15:00	全国地方議会サミット2025（2日目）	
		16:00	16:09	法政大学→飯田橋駅	徒歩（9分）
		16:15	16:21	飯田橋駅→秋葉原駅	中央・総武線（3駅・6分）
		16:24	16:35	秋葉原駅→浜松町駅	山手線（5駅・11分）
		16:40	16:56	浜松町駅→羽田空港	東京モノレール（2駅・16分）
		19:50	21:10	羽田空港→岡山空港	JAL241便
		21:30	22:40	岡山空港→真庭市役所	車移動（中国道・岡山道経由）

令和7年11月7日～9日

視察参加者（真庭市議会有志）

No	名 前	会 派 名
1	柴田 正志	真和会
2	福島 一則	拓
3	緒形 尚	明日の真庭を考える会

報 告 書

令和7年11月21日

真庭市議会議長 長尾 修 殿

報告者 真和会

氏名 柴田 正志



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 令和7年11月7日 (午前・午後) 5時30分 至 令和7年11月9日 (午前・午後) 11時00分
2	場 所	1 法政大学 (東京都千代田区富士見町 2-17-1) 2 東京都中野区清掃事務所 (東京都中野区松が丘 1-6-3)
3	用 件	1 全国地方議会サミット 2025 (11月8日～9日) 2 ゴミや資源を訪問収集する仕組み (11月7日)
4	概 要	別紙にて報告



中野区清掃事務所 ごみゼロ推進課の取り組みレポート

日時: 11月7日(金)

会場: 東京都中野区松が丘1丁目 6-3

説明者: ■■■氏、■■■氏、■■■氏 他

※中野区議会 ■■■より挨拶がありました。

1. 中野区の地域特性

- ・ 人口構成/30 歳代が最多(17.7%)、次いで 20 歳代(16.3%)、40 歳代(16.2%)
高齢者(65 歳以上)は 20.2%
- ・ 世帯構造/単身世帯が 62.3%と多数、5 人以上世帯はわずか 1.5%

※都市型の特徴として「単身世帯の多さ」が顕著であり、真庭市など地方都市と大きく異なる。

2. ごみゼロ推進課のビジョン

目標 「不要物の発生・排出抑制と資源化により、ごみゼロ都市を目指す」

重点取組

- ① ごみ減量推進のための3R(リデュース・リユース・リサイクル)の普及啓発
- ② 小型充電電池の適正排出
- ③ 安全かつ着実なごみ収集・運搬の実施

3. ごみの訪問収集事業

開始と経緯

- ・2000 年: 介護保険制度導入
- ・2001 年: 訪問収集開始
- ・2015 年: 「声かけ」サービス追加(安否確認目的)

対象世帯

- ・身体障がい者手帳(1・2級)所持世帯
- ・要支援・要介護認定世帯

仕組み

申込書提出 → 面接・確認 → 分別説明 → 排出場所確認 → 訪問収集開始

※3回連続でごみが出ない場合はケアマネや親族へ連絡

2024年度実績

- ・訪問収集:504件
- ・声かけ:28件

※実施体制:2人1組×2チームで行う。

4. 評価と課題

良かった点

- ・高齢者や障がい者に喜ばれるサービス
- ・高齢化社会に向けて不可欠な支援

課題点

- ・入退院による中断・再開の管理が煩雑
- ・ケアマネとの連絡が取りづらい
- ・入退院や死亡時の情報が届かないことがある

5. 粗大ごみ運び出し収集

- ・2008年開始
- ・対象:高齢者(身体障がい者・介護認定者)
- ・実績:年間約750件

6. 総括

中野区の清掃事業は、都市型の人口・世帯構造に対応しつつ、高齢者や障がい者への支援を強化している。（真庭市では高齢化によりこういったサービスが必要であるが中野区の場合、高齢化率は低いが極端な単身世帯の多さによりこういったサービスが必要になったと考える。）訪問収集や声かけサービスは「生活環境の維持」と「安否確認」の両面で重要な役割を果たしており、今後さらに高齢化が進む中で必要性が高まると考えられる。一方で、入退院や死亡時の情報連携不足などの課題があり、福祉・医療との連携強化が求められることがわかった。



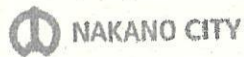
中野区 環境部



中野通りの桜

〒164-0024 東京都中野区松が丘1-6-3
TEL 03-3387-5353 FAX 03-3387-5389

中野区議会



中野区清掃事務所



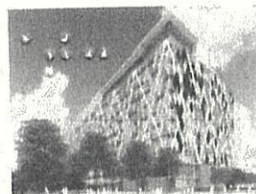
中野区ごみ減量キャラクター

ごみのん

〒165-0024 東京都中野区松が丘 1-6-3
TEL 03-3387-5353 FAX 03-3387-5389



中野区 環境部 清掃事務所



新区役所イメージ

〒165-0024 東京都中野区松が丘1-6-3
TEL 03-3387-5353 FAX 03-3387-5389

全国地方議会サミット 2025 参加レポート(11月8日・9日 法政大学)

1. 開催概要

- ・ 日時: 2025年11月8日(土)14:00~18:00、11月9日(日)10:00~15:00
- ・ 会場: 法政大学 市ヶ谷キャンパス
- ・ 主催: ローカル・マニフェスト推進連盟
- ・ テーマ: 地方議会の最新動向と未来の方向性

全国地方議会サミットは、地方議会の未来を展望し、議員・事務局・市民が共に議論する場として開催されました。今年は「SNS・AI・DX」「主権者教育」「議会改革」をテーマのサミットでした。

2. プログラム内容

Day1(11月8日)

- ・ 基調講演: 「炎上の時代の政治コミュニケーション」廣瀬克哉(法政大学教授)
 - SNS時代における政治情報の拡散と議会の対応を考察
- ・ セッション: 「SNSと地方議会」
 - SNSが民意形成に与える影響、議会運営への活用と課題を議論。
- ・ 事例発表: 知名町議会(沖永良部島)による政策提言の実践報告

Day2(11月9日)

- ・ テーマ討議: 「子ども・若者の意見を聴く議会改革」
 - 住民との対話を重視した政策形成のあり方を検討。
- ・ 特別講演: 北川正恭(早稲田大学名誉教授)による最終講演
 - 分権改革の歩みを振り返り、「善政競争」の意義を提起

3. 学びと感想

・生成 AI がもたらす変革

社会の在り方を大きく変える可能性があり、議会も対応力を高める必要がある。

・理念の再確認

「議会が地方を変え、地方が日本を変える」という理念を改めて胸に刻み、決意を新たにした。

・チーム議会の重要性

議員と事務局職員が一体となった「チーム議会」を構築することが不可欠。

・執行部との関係性

議会は執行部の追従機関であってはならない。時には議案を否決することで、議会の独立性と存在意義を示す必要がある。執行部にとっても、議会のチェック機能が健全な政策形成を促す契機となる。

4. 今後への展望

- ・ AI・DX を活用した議会運営：情報発信や政策形成において、生成 AI を積極的に取り入れる。
- ・ 住民参加の拡充：若者や市民の声を議会に反映させる仕組みを強化。
- ・ 議会事務局との連携強化：議員と職員が一体となった「チーム議会」を構築し、政策実現力を高める。

5. まとめ

今回のサミットは、地方議会の未来を考えるうえで大きな示唆を与えてくれた。生成 AI の時代にふさわしい議会の姿を模索しつつ、理念を再確認し、チームとしての議会の力を高めること。そして、執行部に追従するのではなく、時には議案を否決する勇気を持つことで、議会の独立性を確立すること、そして国の交付金のパッケージから自治体を選んで政策を行うことをしていても地方は良くならない。地方で実践したい、本当に必要なものを国に提案していく、それが地方から日本を変えることになる。と話された北川先生のお話が印象的でした。

報 告 書

令和7年 11月 22日

真庭市議会議長 長 尾 修 様

報告者 真庭市議会議員 氏名 緒 形 尚



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・~~要請陳情活動~~をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 令和7年 11月 7日 (午前 午後) 5時30分 至 令和7年 11月 9日 (午前 ・午後) 11時00分
2	場 所	①法政大学 (東京都千代田区富士見2-17-1) ②東京都中野区清掃事務所 (東京都中野区松が丘1-6-3)
3	用 件	①全国地方議会サミット2025 (11月8日～9日) ②ゴミや資源を訪問収集する仕組み (11月7日)
4	概 要	別紙にて報告



東京都中野区清掃所座学視察報告書

1 視察日時

令和7年11月7日 13時00分～14時30分

2 視察場所

東京都中野区清掃事務所（東京都中野区松が丘1-6-3）

3 対応者

中野区議会：[REDACTED]

中野区清掃事務所：[REDACTED]

中野区清掃事務所：[REDACTED]

中野区清掃事務所：[REDACTED]

4 視察目的

訪問収集業務に関する制度・運用状況について、座学形式で説明を受け、理解を深めることにより今後の施策立案の参考とする。

5 説明概要

1. 訪問収集の対象は、高齢者・障害者等、自力でのごみ出しが困難な世帯であること
2. 申請から認定までの流れは、直接清掃事務所で行われること
3. 収集は週2回、職員2名体制で玄関先にてごみを受け取る方式であること
4. 収集時には声掛けを行い、安否確認を兼ねる場合があること
5. 個人情報保護や安全確保のための体制が整備されていること
6. 課題として、利用者増加に伴う人員負担や今後の需要増加が見込まれること

6 視察所見

座学形式の説明により、制度の仕組みや運用上の留意点を体系的に理解することができた。
訪問収集は単なるごみ収集業務にとどまらず、福祉的役割を果たしている点が強調されていた。
今後の需要増加に備え、職員体制の強化や ICT 活用による効率化が課題であると認識した。

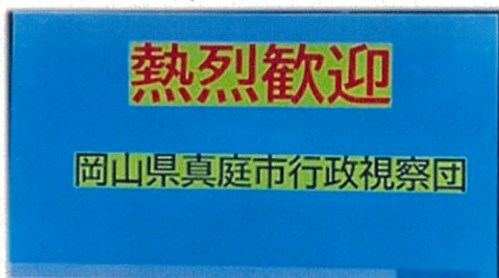
7 総括（長文）

今回の視察を通じて、中野区における訪問収集業務は、単なる廃棄物処理の一環ではなく、地域福祉の重要な担い手として位置づけられていることが明確となった。特に、高齢化の進展や単身世帯の増加に伴い、ごみ出しが困難となる住民が増加している現状において、訪問収集は生活基盤を支える不可欠なサービスであると同時に、住民の安心感を醸成する役割を果たしている。

また、収集業務が安否確認を兼ねる点は、行政サービスの枠を超えた福祉的意義を持ち、地域社会における見守り機能の一端を担っていることが確認できた。これは、単なる業務効率の追求ではなく、住民の生活の質を向上させる取り組みとして高く評価できる。

一方で、利用者の増加に伴う人員負担や業務量の増大は避けられず、今後の持続可能性を確保するためには、職員体制の強化、ICT の導入による効率化、さらには地域住民やボランティア団体との連携強化が求められる。特に、デジタル技術を活用した申請・認定手続きの簡素化や、収集ルート最適化は、業務の効率化に資する有効な手段となり得る。

総じて、中野区の訪問収集は、廃棄物行政と福祉行政の接点に立つ先進的な取り組みであり、他自治体にとっても参考となる事例である。今回の視察で得られた知見は、今後の施策立案や制度改善に資するものであり、持続可能で包摂的な地域社会の形成に向けた重要な示唆を含んでいる。



全国地方議会サミット 2025(1日目)報告書

1 開催概要

開催日：令和7年11月8日(土)

開催場所：全国地方議会サミット会場

主催：ローカルマニフェスト推進連盟

目的：地方議会の先進事例及び現状課題を共有し、議会関係者間の交流を通じて今後の議会の方向性を議論する。

2 基調講演

講師：廣瀬克哉 法政大学法学部政治学科教授

演題：「『炎上の時代』の政治コミュニケーション」

講演要旨：廣瀬教授は、現代社会においてSNSが持つ構造的特徴として「炎上を自動的に増幅させる仕組み」を指摘した。情報が瞬時に拡散される環境では、対立的な言説や感情的な反応が強調されやすく、政治コミュニケーションの質が損なわれる危険性があると述べた。そのうえで、政治家や議会関係者は「自らの考え方や社会のあり方を、誰かとの丁寧な対話を通じて確立すること」が不可欠であり、炎上の時代であっても冷静で持続的なコミュニケーションを重視すべきだと強調した。教授はまた、ネットとリアルの双方で信頼関係を築くことが、民主主義の基盤を守るうえで重要であると説いた。

3 セッションI【SNSと地方議会】

テーマ：「『民意』はどうできていくのか？ SNSの影響と地方議会の方向性」

発表者①：米重克洋 株式会社JX通信社代表取締役

演題：「インフレとメディアシフトが起こす 日本政治の地殻変動」

要旨：米重氏は、近年の選挙において「メディアシフト」の影響が顕著に現れていると指摘した。従来のテレビや新聞中心の情報流通から、SNSやネットメディアへと急速に移行することで、政治情報の受け手が大きく変化している。特にネット空間では、対立的な言説や極端な意見が拡散されやすく、政治的分断を助長する傾向があると述べた。さらに、インフレや社会構造の変化と相まって、政治コミュニケーションのあり方そのものが大きな地殻変動を迎えているとし、地方議会もこうした環境変化に対応する必要性を強調した。

発表者②：大森翔子 法政大学社会学部メディア社会学科准教授

演題：「SNSが有権者に与える影響」

要旨：大森准教授は、SNSで人々が接する政治情報は「偶然的で断片的」とであると分析した。利用者は意図的に政治情報を探すのではなく、日常的な利用の中で断片的に政治的要素に触れるため、理解が

浅く偏りやすい傾向があると指摘した。そのため、健全な民主主義を維持するには、リアルな場での双方向的な対話を継続することが不可欠であり、議会や議員は SNS だけに依存せず、地域社会での直接的な交流を重視すべきだと述べた。

4 セッション2【AIと地方議会】

テーマ：「活性化？不要？AIで議会・議員はどう変わる？ 世界と日本の今と未来」

発表者①：高選圭 福島学院大学地域マネジメント学科教授

要旨：高教授は、海外の先進事例を多数紹介しながら、AI活用の本質は「行政情報のさらなるオープン化と資源の利活用」にあると述べた。単なる技術導入ではなく、自治体運営の哲学として「情報を市民に開放し、共に活用する姿勢」が求められると強調した。AIは議会活動の効率化や透明性向上に資するが、その導入には予算措置や制度設計が不可欠であり、議会が主体的に関与する必要があると指摘した。

発表者②：河村和徳 拓殖大学政経学部教授

要旨：河村教授は、日本の民主主義分野におけるデジタル活用の遅れを問題視した。コロナ禍で得られた教訓を踏まえ、議会は「デジタル・インクルージョン」の発想を持ち、誰もがどこからでも参加・傍聴できるシステムを構築すべきだと提案した。また、会議録や議事情報のオープンデータ化を進めることで、議会の透明性を高め、市民参加を促進できると述べた。さらに、予算決定権を持つ地方議会が自らのバージョンアップを訴え、必要な資源を確保することが重要であると強調した。

5 セッション3【議会改革のトレンド】

テーマ：「議会改革のトレンドと注目議会 ～地域経営のための議会改革度調査から～」

発表者：山内健輔 早稲田大学デモクラシー創造研究所招聘研究員

要旨：山内氏は、議会改革を進めるうえで「できることから徹底的に模倣する(TTP)」姿勢が有効であると提案した。各議会が独自にゼロから取り組むのではなく、既存の成功事例を積極的に取り入れることで改革を加速できると述べた。さらに、生成AIの活用について「議会はすでに情報の宝の山を持っている」と指摘し、文書作成支援、要約生成、広報活動などでの活用可能性を紹介した。また、無投票を克服した議会の事例や、市民参加を促す新たなチャレンジを進める議会を紹介し、参加者に対して「サミットで得た事例を持ち帰り、各地域で実践につなげること」が重要であると呼びかけた。

感想

本サミットに参加し、地方議会が直面する課題と可能性について多角的な視点から学ぶことができ、大変有意義であった。特に、SNSの情報拡散構造や炎上の危険性についての指摘は、議会活動における情報発信の在り方を再考する契機となった。偶然的・断片的な情報接触が有権者の政治理解に影響を与える現状を踏まえ、リアルな場での双方向的な対話を継続する重要性を改めて認識した。

また、AI活用に関する議論では、海外事例を通じて行政情報の開放や議会参加の拡充が進んでいるこ

とを知り、日本の地方議会においても積極的な導入と制度設計が求められることを痛感した。特に、議会が主体的に予算や仕組みづくりに関与し、透明性と効率性を高める姿勢が不可欠であると理解した。

さらに、議会改革の最新動向については、生成 AI の活用可能性や市民参加の促進事例が紹介され、各地域での実践に直結する具体的な示唆を得ることができた。「徹底的に模倣する(TTP)」という考え方は、改革を加速させるうえで現実的かつ有効な手法であると感じた。

SNS・AI・議会改革という三つのテーマは、地方議会の未来を形づくる重要な要素であり、今回の議論を通じて、議会が社会の変化に応じて柔軟に対応し、市民との信頼関係を築いていく必要性を強く認識した。今後は本サミットで得た知見を持ち帰り、実践に活かすことが求められる。

全国地方議会サミット 2025(2日目)報告書

1. 概要

令和 7 年 11 月 9 日(日)、法政大学(東京都千代田区)にて開催された「全国地方議会サミット 2025」2日目に参加した。今回のサミットでは、地方議会における政策形成の実践と、子ども・若者との協働による政策づくりの可能性について、先進事例を交えた議論が行われた。

2. 主な内容

(1) 地方議会の政策づくり実践編①「子ども・若者との政策づくり」

・林紀行 日本大学法学部教授による課題提起 一選挙権年齢の引き下げや主権者教育の必要性に触れつつ、「主権者教育と議会改革を制度として一体的に設計・実装することが重要」と提言。

●事例報告

①「富士高生の主張 in 富士見市議会」(勝山祥 富士見市議会議長)

富士見市では、市内の高校生が議場で自らの意見を発表する「富士高生の主張」を実施。議会が高校と連携し、若者の声を直接政策に反映する仕組みを構築している。単なる発表の場にとどまらず、議員との意見交換や政策提案のプロセスを通じて、若者が「まちづくりの担い手」として育つ機会となっている。

②「主権者教育につながるこどもの意見の施策反映」(笹田卓 浜田市議会副議長)

浜田市では、子ども議会や意見募集を通じて集めた子どもたちの声を、実際の施策に反映する取り組みを進めている。特に、子どもたちの意見を「政策提案書」として整理し、議会での議論に活用する仕組みが特徴的。教育委員会や学校現場との連携を重視し、主権者教育の一環として位置づけている。

③「議員との対話で民主主義の担い手を育てる」(田口裕斗氏/NPO 法人 DAKKO 理事)

NPO 法人 DAKKO では、若者と議員が対話を通じて相互理解を深める「対話型主権者教育プログラム」を展開。模擬議会やワークショップを通じて、若者が政治や社会課題に主体的に関わる力を育む。特に、議員が“教える側”ではなく“共に考える存在”として関わるのが、若者の政治的関心を高める鍵であると報告された。

質疑応答

教育現場との連携の難しさや、主権者教育を実施する学校の選定方法、子どもたちの意見を政策に反映する際の課題、中間支援組織の他自治体展開の可能性など、実務的な観点からの質問が多く寄せられた。林教授からは、「かつて『地方議員はマニフェストが書けるのか』という問いに挑戦したように、今後は『地方議員は主権者教育ができるのか』という問いに、チーム議会で挑んでほしい」との呼びかけがあった。

感想

今回のサミット2日目では、「子ども・若者との政策づくり」と「議会による政策形成」の2つのテーマを軸に、地方議会の新たな可能性と責任について深く考える機会となった。

前半のセッションでは、若者との協働による政策形成の実践事例が紹介され、議会が教育現場や市民活動と連携しながら、主権者教育を担う存在へと進化している様子が印象的だった。特に、富士見市や浜田市のように、若者の声を議場に届ける仕組みが制度化されている事例は、地方議会が“開かれた場”として機能するためのヒントに満ちていた。

後半のセッションでは、議会が政策形成の主体として、調査・提言・検証までを一貫して担う体制づくりが紹介された。一関市や横須賀市のように、政策サイクルを明文化し、議会内で共有することで、議員個人の活動から議会全体の力へと転換していく流れが見て取れた。知名町のように、住民との距離が近い自治体では、常任委員会が住民起点で政策を練るという実践も非常に参考になった。

全体を通じて、議会が「主権者教育の担い手」「政策形成の主体」「住民自治の基盤」として、多面的な役割を果たす時代に入っていることを実感した。制度や仕組みの整備だけでなく、議員一人ひとりの姿勢や議会全体の文化が問われる中で、他の自治体の先行事例を“TTP”（徹底的にパクリ）しながら、真庭市に合った形で実践していくことの重要性を再確認した。

今後は、若者参画の仕組みづくりや、政策サイクルの制度化に向けた議会内の議論を深めるとともに教育委員会や市民団体との連携を強化し、地域全体で「民主主義の担い手」を育てる環境づくりに取り組んでいきたい。

●北川正恭・早稲田大学名誉教授による【LM 最終講義】

本サミット2日目の午後に行われた北川正恭・早稲田大学名誉教授による【LM 最終講義】は、地方自治の本質と未来を深く問い直す貴重な機会となった。北川教授が長年にわたり提唱されてきた分権改革やローカル・マニフェスト運動の歩みは、単なる制度改革にとどまらず、地域住民の暮らしに根ざした民主主義の実現を目指すものであり、その理念と実践の積み重ねに改めて敬意を表したい。

冒頭のパネルディスカッションでは、北川教授の知事時代の先進的な取り組みや、議会事務局職員との協働による議会改革の実践、マニフェストを通じた政策競争の意義などが多角的に語られた。特に、「議会と首長が政策力を競い合うことこそが、住民福祉の向上につながる」という視点は、今後の自治体運営においても重要な示唆となる。

また、マニフェスト大賞を通じて善政競争の文化を育み、地方議会の役割を「チェック機関」から「政策形成機関」へと進化させてきた軌跡は、まさに地方自治の成熟を象徴するものであると感じた。議員個人の努力に加え、会派や議会全体、さらには事務局職員との連携によって「チーム議会」として改革を進めていくという考え方は、今後の議会改革の方向性を示すものであり、実践に向けた大きなヒントとなった。

さらに、北川教授が講義の中で言及された「デジタル革命・AI による新たな統治の形態」については、まさに今後の地方自治体が直面する大きなテーマであり、変化の時代においても地域から新たな価値を創造していく姿勢の重要性を強く感じた。本サミットで得られた知見や刺激を、今後の地域づくりや議会改革の実践に活かし、持続可能で開かれた自治の実現に向けて、引き続き取り組んでいきたい。





中野区 環境部 ごみゼロ推進課



中野通りの桜

〒164-0024 東京都中野区松が丘1-6-3
TEL 03-3387-5353 FAX 03-3387-5389

中野区議会



中野区清掃事務所



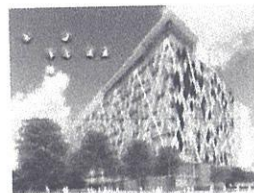
中野区ごみ減量キャラクター

ごみのん

〒165-0024 東京都中野区松が丘1-6-3
TEL 03-3387-5353 FAX 03-3387-5389



中野区 環境部 清掃事務所



新区役所イメージ

〒165-0024 東京都中野区松が丘1-6-3
TEL 03-3387-5353 FAX 03-3387-5389

報 告 書

令和7年11月21日

真庭市議会議長 長尾 修 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 福 島 一 則



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 令和7年11月7日（午前・午後）20 時30分 至 令和7年11月9日（午前・午後）23 時00分
2 場 所	東京都千代田区富士見2-17-1 法政大学市ヶ谷キャンパス
3 用 件	全国地方議会サミット2025
4 概 要	令和7年11月7日から9日までの二日間、東京都において「全国地方議会サミット2025」が開催され、全国各地の地方議会関係者が一堂に会し、地方自治の課題と展望について意見交換が行われた。



報告書

1, 主な内容

人口減少・少子高齢化対策 全国的に共通する喫緊の課題として、人口減少と少子高齢化への対応が取り上げられた。各自治体からは、子育て支援の充実、移住・定住促進策、地域包括ケアシステムの強化など、多様な事例が報告された。特に、若年層の流出を防ぐための雇用創出や教育環境の整備が重要であることが強調された。

デジタル化・行政DXの推進 行政手続きのオンライン化やAI・データ活用による効率化が議論され、住民サービスの利便性向上と業務の省力化を両立させる取組が紹介された。マイナンバーカードの活用拡大、行政情報のオープンデータ化、災害時の情報共有システムの整備など、実践的な事例が共有され、今後の議会活動においても参考となる内容であった。

広域連携の重要性 単独の自治体では対応困難な課題に対し、近隣自治体や広域圏での連携による解決の可能性が示された。具体的には、公共交通網の維持、医療・福祉資源の共同活用、観光資源の広域的なプロモーションなどが挙げられた。こうした連携は、地域の持続可能性を高める上で不可欠であるとの認識が共有された。

議会改革と住民参加 議会の透明性向上や住民参加の拡充についても議論が行われた。議会中継や議事録の公開、パブリックコメント制度の活用、若者や女性の参画促進など、議会の開かれた姿勢を示す取組が紹介された。住民との双方向のコミュニケーションを強化することが、議会の信頼性向上につながるとの意見が多く出された。

2, 成果と所感

本サミットを通じ、全国の議会関係者と交流を深め、共通課題と地域特有の課題を再認識することができた。特に、デジタル技術の活用や広域連携の推進は、今後の議会活動において重要な視点となると考える。

3, 今後の対応

サミットで得られた知見を議会内に共有し、政策立案に活用する。
他自治体とのネットワークを維持・発展させ、情報交換を継続する。
地域住民に対し、全国的な議論の成果を還元し、理解促進に努める。

4, 感想

今回の全国地方議会サミット2025に参加し、二日間にわたり全国各地の議会関係者と意見交換を行ったことは、極めて有意義でありました。人口減少や少子高齢化、地域経済の活性化、行政のデジタル化など、我が市においても直面している課題について、他自治体の先進的な取組や具体的な成果を直接伺うことができ、政策の方向性を再考する大きな契機となりました。特に、広域連携による公共交通や医療資源の確保、住民参加を促す議会改革の事例は、今後の議会活動において参考となるものであり、地域の持続可能性を高める上で重要

な示唆を得ました。

また、全国の議員や職員との交流を通じて、課題の共通性と地域ごとの特色を改めて認識することができました。議会は地域住民の信頼を基盤とするものであり、透明性の確保や双方向のコミュニケーションの強化が不可欠であるとの認識を共有できたことは、大きな成果であったと考えます。

本サミットで得られた知見や人脈を一過性のものとせず、今後の議会活動において積極的に活用し、地域課題の解決に資する政策立案へとつなげてまいりたいと存じます。地方から日本を変えるという強い意志を胸に、引き続き議会の責務を果たしていく決意を新たにいたしました。